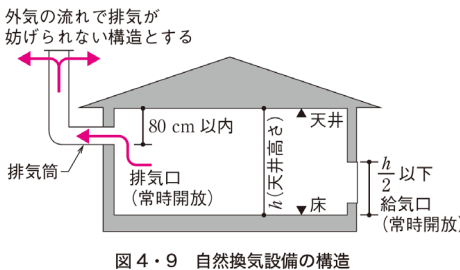
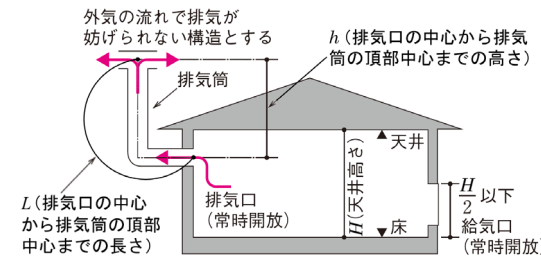
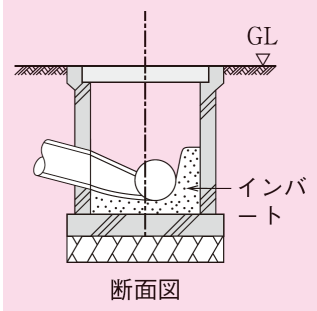
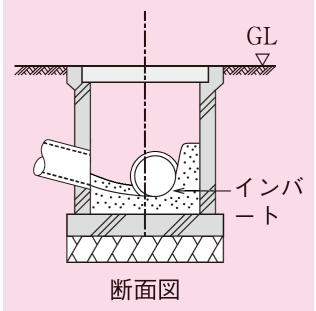
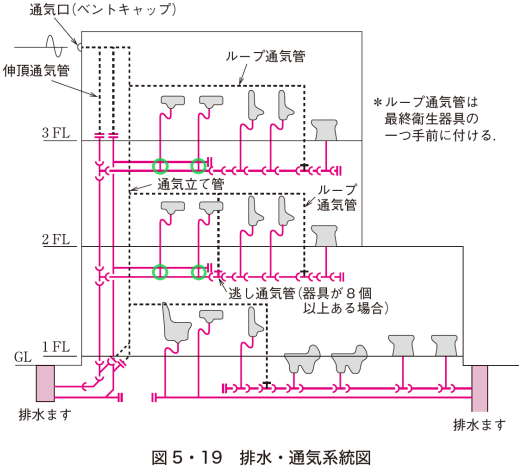
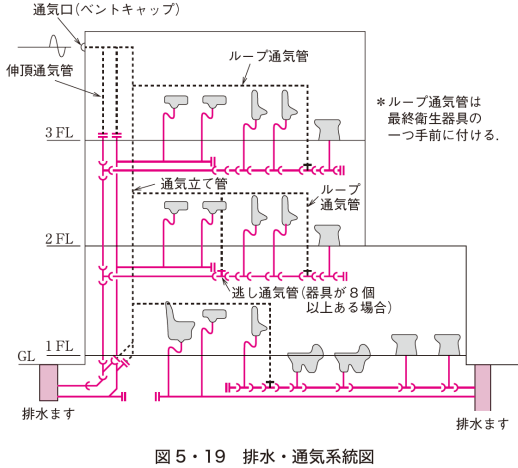
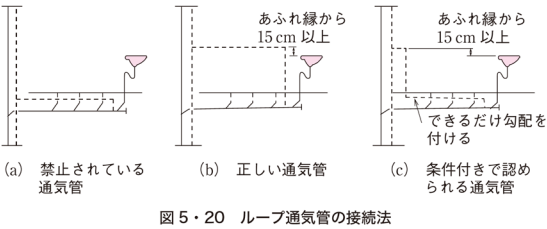
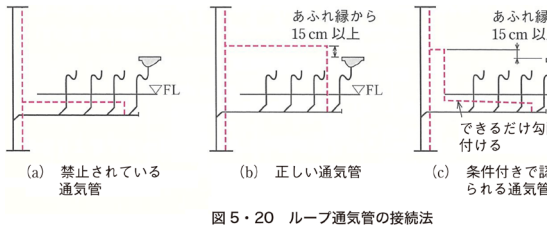
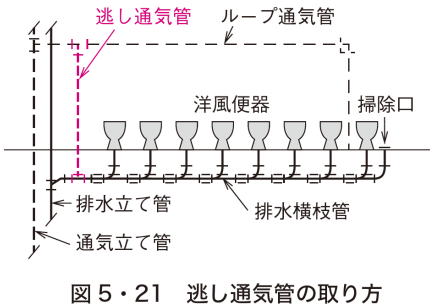
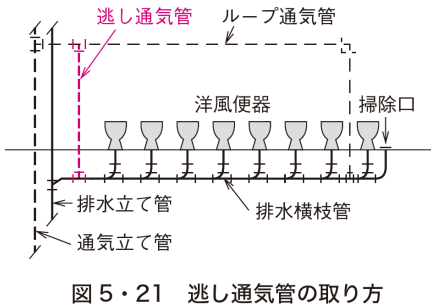
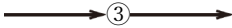
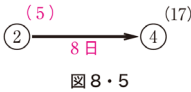
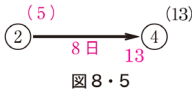
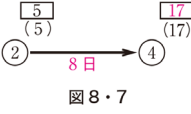
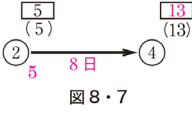
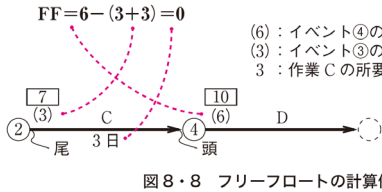
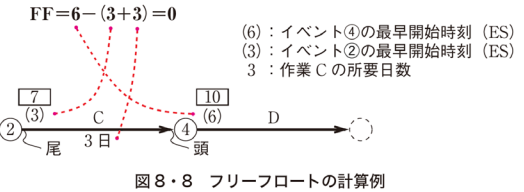
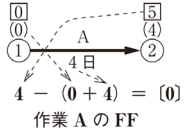
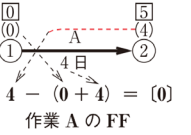


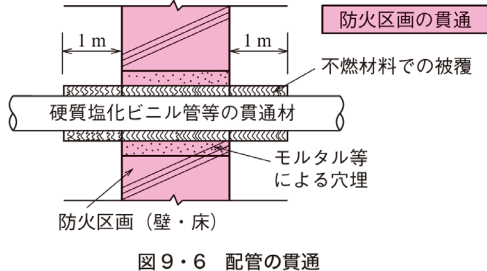
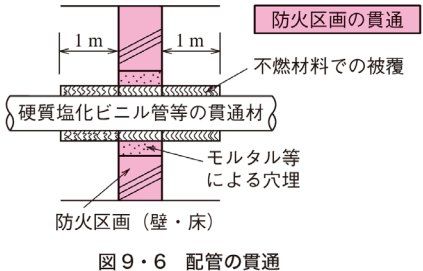
書名：これだけマスター 1 級管工事施工管理技士 第一次検定
発行：2022 年 5 月 5 日 第 1 版第 1 刷発行
2025 年 4 月 10 日 第 1 版第 2 刷発行
ISBN：978-4-274-22868-1

■第 1 刷正誤表

頁	該当箇所	正誤内容	
		誤	正
4	表 1・3, 温度	17～28 ℃（冷房時は——	18～28 ℃（冷房時は——
	表 1・3, 一酸化炭素の含有率	0.001 %（10 ppm）以下	0.0006 %（6 ppm）以下
20	6 行目	$h = \frac{aV_0}{g} = \frac{V_0}{g} \sqrt{K/\rho(1 + KD/ES)}$	$h = \frac{aV_0}{g} = \frac{V_0}{g} \sqrt{K/\rho(1 + KD/ES)}$
41	下から 9 行目	平坦たん特性	平坦特性
49	下から 5 行目	(5～8 倍)	(5～7 倍)
52	下から 1 行目	使用電圧が高いほど低い値とする.	使用電圧が高いほど高い値とする.
53	問題②解説	配線は, 3 本の電線で接続する.	配線は, 6 本の電線で接続する.
60	12 行目	セメントの重量に対する水の重量	セメントの質量に対する水の質量
80	図 4・4	$h_1 h_2 h_3 \quad x_1 x_2 x_3 \quad t_1 t_2 t_3$	$h_1 h_3 h_2 \quad x_1 x_3 x_2 \quad t_1 t_3 t_2$
82	下から 1 行目の下	右の 2 行を挿入	x_4 : 加熱コイル出口空気絶対湿度〔kg/kg (DA)〕 x_5 : 室内空気絶対湿度〔kg/kg (DA)〕
106	下から 4 行目	給気口より高い位置（天井から 80 cm 以内）	(天井から 80 cm 以内) を削除
	下から 1 行目	(建設省告示第 182 号)	(建設省告示第 1826 号)
	図 4・9	“80 cm 以内”を削除, “ h (給気口の中心から——)” “ L (排気口の中心から——)”を追記, “ h (天井高さ)” を“ H (天井高さ)”に 	
107	1 行目	$A_v = KQ/3\,600\sqrt{(3 + 5n + 0.2L)/h}$	$A_v = 40KQ/3\,600\sqrt{(3 + 5n + 0.2L)/h}$
112	1 行目	排煙口のサイズは, 吸込み風速 10 m/s 以下	排煙口の吸込み風速は, 10 m/s 以下
126	下から 11 行目	入孔	人孔
129	下から 1 行目	⑤ まずは, 公道と民有地の境界付近の公道側に設置する.	⑤ すべて削除

134	汚水ます 断面図	右図のように修正 	
156	表 5・5	手洗器 30	手洗器 25
159	図 5・19	○を削除 	
	図 5・20	通気管を色野に、洗面器を灰色に修正 	
160	図 5・21	排水横枝管部分を右図のように修正 	
160	12 行目	排水横枝管などに接続するもの	通気立て管などに接続するもの
180	図 5・27	小形合併処理浄化槽（分離接触ばっ気） A：沈殿分離槽	小形合併処理浄化槽（嫌気ろ床接触ばっ気） A：嫌気ろ床槽
181	4 行目	想定利用者数に定数を乗じて	総便器数（個）に定数 16 を乗じて
220	7 行目	受注者は,	発注者は,

222	表 7・1「記号」の欄 6 行目	SGP-VD	SGP-VA SGP-VD
234	表 8・2, 提出先の 3 行目	都道府県知事又は市町村長	市町村長, 都道府県知事又は総務大臣
	表 8・2, 提出時期の 7 行目	着工前	着工 10 日前まで
240	図 8・3		
	下から 9 行目	①→③の順に	①→③→④の順に
	図 8・5	イベント④の最早開始時刻を(13)に修正 最早完了時刻 13 を色文字で追加 	
241	13 行目	二つの矢線の日数のどちらか小さいほう	二つの矢線の日数で計算してどちらか小さいほう
	図 8・7	イベント④の最遅完了時刻を[13]に修正 イベント④の最早開始時刻を(13)に修正 イベント②の最遅開始時刻 5 を色文字で追加 	
	下から 6 行目	最遅開始時刻は, 17 - 8 日 (作業日数) = 9 日となる.	最遅開始時刻は, 13 - 8 日 (作業日数) = 5 日となる.
242	図 8・8	(3): イベント③の最早開始時刻 (ES) 破線を正しい位置へ移動 	(3): イベント②の最早開始時刻 (ES) 
	図 8・9	③ →	② →
	図 8・10	(3): イベント③の最早開始時刻 (ES)	(3): イベント②の最早開始時刻 (ES)
244	図 A イベント①の最遅完了時刻	[8]	[0]
249	図 3	破線を正しい位置へ移動  図 3	 図 3

264	マスター Point	作業床の高さが 10 m 以上の高所作業車——技能講習修了者 作業床の高さが 10 m 以上の高所作業車——技能講習修了者	作業床の高さが 10 m 以上の高所作業車——技能講習修了者
268	10 行目	許容引抜き力の大きい方から L 形, LA 形, J 形, JA 形, ヘッド付となる.	許容引抜き力の 小 さい方から L 形, LA 形, J 形, JA 形, ヘッド付となる.
270	下から 8 行目	① 運転時における全体質量の 3 倍以上の長期荷重に耐えられる鉄筋コンクリート基礎上に据付ける.	① 据付けは、基礎の上に引き込み、中心及び基礎ボルトの位置を確かめ、くさびで水平、垂直を調整し、基礎ボルトを締め付ける.
276	下から 2 行目	最大拡散半径が重ならないように	最小拡散半径が重ならないように
278	下から 7-6 行目②	保温筒, ポリエチレンフィルム, 鉄線, アルミガラスクロス の順に施工する	保温筒, 鉄線, ポリエチレンフィルム, アルミガラスクロス の順に施工する
303	下から 6 行目	振動の特定建設作業実施届出書は市町村長に提出	騒音規制法 の特定建設作業実施届出書は市町村長に提出
312	問題③ 解説図	⑤最適後期	⑤最適工期
331	問題② (2)	3 年間保存しなければならない.	5 年間保存しなければならない.
332	問題③	「労働基準法」上, 誤っているものはどれか.	「労働基準法」上, 正しいものはどれか.
338	図 9・6	“防火区画 (壁・床)” の幅を狭く  図 9・6 配管の貫通	 図 9・6 配管の貫通
340	問題② 解説表の②	100 万分の 10 以下	100 万分の 6 以下
	問題② 解説表の④	17 °C 以上 28 °C 以下	18 °C 以上 28 °C 以下
360	下から 1 行目		
343	下から 3 行目と 6 行目	(2016 年 4 月 6 日公布)	(2024 年 12 月 11 日公布)
	下から 5 行目	下請負代金の合計が 4 000 万円以上 (建築一式工事なら 6 000 万円以上)	下請負代金の合計が 5 000 万円以上 (建築一式工事なら 8 000 万円以上) ※「5 000 万円以上」は並字 (色太字でない) に変更
	下から 2 行目	下請負代金の合計が 4 000 万円未満 (建築一式工事なら 6 000 万円未満)	下請負代金の合計が 5 000 万円未満 (建築一式工事なら 8 000 万円未満) ※「5 000 万円未満」は並字 (色太字でない) に変更

345	4 行目	下請契約の請負代金の額が 4 000 万円以上（建築一式工事の場合：6 000 万円以上）	下請契約の請負代金の額が 5 000 万円以上（建築一式工事の場合：8 000 万円以上） ※「5 000 万円以上」と「8 000 万円以上」は並字に変更
	13 行目	工事一件の請負代金の額が 3 500 万円（当該建設工事が建築一式工事である場合にあっては 7 000 万円）以上	工事一件の請負代金の額が 4 500 万円（当該建設工事が建築一式工事である場合にあっては 9 000 万円）以上 ※「4 500 万円」と「9 000 万円」は並字に変更
360	問題⑤（1）	10 ppm 以下	6 ppm 以下
375	〈著者略歴〉 山田信亮	株式会社團紀彦建築設計事務所	前・株式会社團紀彦建築設計事務所
	〈著者略歴〉 今野祐二	専門学校東京テクニカルレッジ	専門学校東京テクニカルカレッジ

■第 2 刷正誤表

頁	該当箇所	正誤内容	
		誤	正
343	下から 3 行目 と 6 行目	(2022 年 11 月 18 日公布)	(2024 年 12 月 11 日公布)
	下から 5 行目	下請負代金の合計が 4 500 万円以上（建築一式工事なら 7 000 万円以上）	下請負代金の合計が 5 000 万円以上（建築一式工事なら 8 000 万円以上）
	下から 2 行目	下請負代金の合計が 4 500 万円未満（建築一式工事なら 7 000 万円未満）	下請負代金の合計が 5 000 万円未満（建築一式工事なら 8 000 万円未満）
345	4 行目	下請契約の請負代金の額が 4 500 万円以上（建築一式工事の場合：7 000 万円以上）	下請契約の請負代金の額が 5 000 万円以上（建築一式工事の場合：8 000 万円以上）
	13 行目	工事一件の請負代金の額が 4 000 万円（当該建設工事が建築一式工事である場合にあっては 8 000 万円）以上	工事一件の請負代金の額が 4 500 万円（当該建設工事が建築一式工事である場合にあっては 9 000 万円）以上